児童発達支援　事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5年 3月10日　　事業所名：つばめ療育館 しばた分館

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	1	・人数の多い日や運動発達の状況に合わせてグループ分けをしたり、支援室を分けたりして支援している。 ・リズム運動の際、人数が5人以上、または年齢に差がある場合、二つのフロアを使っている。 また、運動は大人数で活動するのではなく、できるだけ、少人数ずつ分けるようにして活動している。	・リズム運動の際、引っ張り棒で母同士がぶつかってしまうことがある。事業所アンケートでも、人数によってはフロアが狭く感じると書かれる方が数名いた。ぶつかりやすい活動は、順番待ちで一人ずつ取り組むなど工夫していく。	
	②	職員の配置数は適切である	3				
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	1	・必要な箇所にはマークや写真、イラストを用いて誰にでもわかりやすい工夫を行っている。施設入口はバリアフリーではないため、今後出入りに援助が必要なお子さんが利用される場合は、対応を検討する。	・施設内の段差は無いが、玄関は階段のみでスロープが無い。車いすやバギーの利用者さんは今のところいないが今後必要になる可能性もある。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	3				
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	3		・支援後は関わった職員が参加し、支援の振り返りを実施し、次回のプログラム内容へ反映させている。 ・一人ひとりの子どもたちの目標の振り返りや、一日の振り返りはその日支援にでた職員全員で行っている。		
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3		・提出率を上げる。または、書きにくいことでも書いてもらうため、無記名で、置いてある封筒に入れてもらう形にした。		
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2		・今年度実施予定。		無回答1
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		2			無回答1
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3		・職員内での勉強会の実施や外部研修へ参加し学んだことを他職員へ伝達研修を行っている。 ・一ヶ月に一回、担当職員を変えながら文献学習をしている。		
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	3		・利用開始前には個別面談を実施し、お子さんの身体状況を把握したり、保護者の方から発達状況のチェックをしていただき、計画書に反映している。その後は、定期的なモニタリングを実施し、ニーズや課題の把握に努めている。 ・個別支援計画切り替え時には、保護者と一対一の時間を取り、支援内容について聞き取りを行っている。		
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2		・遠城寺式・乳幼児分析的発達検査表を使用し、発達のスクリーニングを実施している。言語面や視覚認知面の評価ツールを対象の利用児がいれば対応可能。		無回答1
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	2				無回答1
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	3		・振り返りを計画書に沿って実施し、次回の課題も確認しており、計画書に沿った支援を行っている。		

	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	3				
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	2		・お子さんの課題によっては、同じ活動を繰り返し実施することもあるが、活動の目的をご家族と共有するとともに、利用児が活動を楽しめるよう工夫を行っている。		無回答1
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	3				
適切な支援の提供	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3				
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3		・前述の通り、振り返りを実施している。		
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3		・振り返り用紙に記録を取り、1ヶ月毎のまとめを行い、その後モニタリングに繋げている。		
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	3				
	㉑	運動（感覚統合）は安全面に配慮して行われている	3				
	㉒	その子どもに合った課題が用意されている	3		・事前に準備した活動や課題に興味が持てない様子が見られることもあり、その際には臨機応変に課題を変更・追加する等の対応を行っている。		
	㉓	身体調和支援（マッサージ）について、技術の研鑽は行われている	3		・資格取得後も、毎年更新研修に参加し技術研鑽に努め、職員間でもお互いの技術を確認し合っている。		
関係機関や保護者との連携	㉔	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3		・基本的に児童発達支援管理責任者が出席するが、出席前には職員間で最近の状況をまとめた資料を用意し持参するようにしている。		
	㉕	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	2		・市役所の担当課や担当相談員、保育園などと連絡を取り合いながら支援を行っている。		無回答1
	㉖	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			・現在、重症心身障害のある利用児はいない。今後受け入れ要請があった場合は、対応を検討する。		無回答3
	㉗	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			・現在、重症心身障害児の利用はない。今後受け入れ要請があった場合は、対応を検討する。		無回答3
	㉘	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3		・就園に際しては、情報提供書を作成し情報共有を行う予定で準備を行っている。		
	㉙	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3		・就学に際しては、情報提供書を作成し情報共有を行う予定で準備を行っている。		
	㉚	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3		・他事業所との連携を行っている。		
	㉛	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		3	・現在は行っていない。		
	㉜	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2		・自立支援協議会に参集依頼があった場合、出席している。		無回答1
	㉝	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3		・親子通所なので、常にお子さんの状況（できるようになったこと、今後目指したい姿、今困っていること等）については、共有するようにしている。		

保護者への説明責任等	㉞	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）の支援を行っている	2		・自宅でもできる遊びや関わり方等をお伝えし、自宅でも継続して取り組めるよう支援している。		無回答1
	㉟	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3				
	㊱	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	3				
	㊲	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3		・適宜、ご家族からの相談に応じるようにしている。悩みがあればいつでも声をかけていただけるよう、さらに周知を図っていく。		
	㊳	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		2	・事業所から保護者会等は開催していないが、お子さんのお昼寝時間を利用して保護者同士のコミュニケーションが図られるようにしている。 ・保護者会等は開いていないが、保護者のみのマッサージおさらい会は実施している。		無回答1
	㊴	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	3				
	㊵	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3				
	㊶	個人情報の取扱いに十分注意している	3				
	㊷	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3		・保護者の連絡手段として電話のみでなく、メールなども活用していただき、スムーズな情報伝達に務めている。		
	㊸	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		2	・今後、施設の開放日などを検討する。 ・今後行う予定。		無回答1
非常時等の対応	㊹	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	2	1	・マニュアルは策定されているが、保護者への周知が不十分と思われる。 ・一度実施した。		
	㊺	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3		・昨年は、避難訓練を隣接施設と合同で1回、当施設のみで1回実施した。今後も継続して実施していく。 ・あおの風、スクラムと共同で避難訓練を行い、その後当事業所のみで行った。		
	㊻	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	2	1	・利用開始前に確認している。		
	㊼	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		1	・親子通所のため、医師の指示書はもらっていないが、情報は共有している。 ・食物アレルギーのある利用者さんがいない。		無回答2
	㊽	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3		・会社全体でインシデントを共有している。		
	㊾	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3				
	㊿	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3		・契約時に身体拘束に係る事項について、説明を行っている。現在までに、身体拘束の事例はない。		

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。